

第 8 4 回総合科学技術会議議事録（案）

1 . 日時 平成 2 1 年 9 月 4 日（金） 1 7 : 1 1 ~ 1 7 : 3 5

2 . 場所 総理官邸 4 階大会議室

3 . 出席者

議 長	麻生 太郎	内閣総理大臣
議 員	河村 建夫	内閣官房長官
同	野田 聖子	科学技術政策担当大臣
同	与謝野 馨	財務大臣（代理 石田 真敏 財務副大臣）
同	塩谷 立	文部科学大臣
同	二階 俊博	経済産業大臣
同	相澤 益男	常勤（元東京工業大学学長）
同	本庶 佑	常勤（京都大学客員教授）
同	奥村 直樹	常勤（元新日本製鐵（株）代表取締役 副社長、技術開発本部長）
同	白石 隆	常勤（元政策研究大学院大学教授・副学長）
同	榊原 定征	東レ株式会社代表取締役社長
同	今榮東洋子	名古屋大学名誉教授
同	青木 玲子	一橋大学経済研究所教授
臨時議員	斉藤 鉄夫	環境大臣

4 . 議題

- （ 1 ） 諮問第 1 1 号「科学技術に関する基本政策について」
- （ 2 ） 独立行政法人日本学術振興会の中期目標・中期計画等の変更について
- （ 3 ） 最先端研究開発支援プログラムの中心研究者及び研究課題について
- （ 4 ） その他

5 . 配付資料

資料 1 諮問第 1 1 号「科学技術に関する基本政策について」

- 資料 2 - 1 独立行政法人日本学術振興会の中期目標・中期計画等の変更について
- 資料 2 - 2 独立行政法人日本学術振興会に関する省令変更案（新旧対照表）、独立行政法人日本学術振興会 業務方法書変更案（新旧対照表）・中期目標変更案（新旧対比表）・中期計画変更案（新旧対照表）
- 資料 3 最先端研究開発支援プログラムの中心研究者及び研究課題について（案）
- 資料 4 - 1 平成 22 年度科学技術振興調整費概算要求方針
- 資料 4 - 2 平成 21 年度科学技術振興調整費による「重要政策課題への機動的対応の推進」の指定について
- 資料 4 - 3 平成 22 年度科学技術関係予算概算要求（概要）
- 資料 5 第 82 回総合科学技術会議議事録（案）

6. 議事

【野田議員】

ただいまより、総合科学技術会議を開会します。

本日は、臨時議員として斉藤環境大臣がご出席です。

（1）諮問第 11 号「科学技術に関する基本政策について」

【野田議員】

それでは、早速議題 1 に入ります。

お手元の資料 1 のとおり、平成 23 年度から 5 カ年の科学技術基本計画の策定のため、科学技術に関する基本政策について総理から総合科学技術会議に対して諮問がなされております。これを受けて、基本政策専門調査会において調査審議を進めてまいりますので、ご了承いただきたいと思っております。

本案につきましてご発言はございますでしょうか。また、ご発言は手短にお願いいたします。文部科学大臣、お願いします。

【塩谷議員】

我が国を取り巻く状況が大きく変化する中、総合科学技術会議において我が国の今後の科学技術の政策の基本となる第 4 期の科学技術基本計画の策定に向けて検討を開始することは極め

て重要であります。文部科学省においても、創造的人材育成を初め、基礎科学力の強化や低炭素社会の実現に向けた科学技術の推進は極めて重要であると認識しており、本年6月より科学技術学術審議会において、第4期科学技術基本計画の策定に向けて検討を開始したところでございます。文部科学省としても、今後、総合科学技術会議における検討に積極的に協力してまいりたいと考えております。

以上です。

【野田議員】

では、先に経済産業大臣ですか。

【二階議員】

イノベーションは将来の成長の原動力であるとともに、地球温暖化などの課題を解決するためには不可欠なものと考えております。国の新たな科学技術政策の方向を示していくことは極めて重要だと思っております。

新しい科学技術基本計画の策定においては、我が国の経済成長力の強化という目標に向けて、研究開発の政策をいかに新産業の育成に結びつけていくか、という観点が必要であります。このため、課題の解決を明確に打ち出した研究開発の推進、新技術をスムーズに産業化につなげていくための環境整備について議論していくことが必要と考えております。

【野田議員】

ありがとうございます。環境大臣、お願いします。

【斉藤議員】

第3期基本計画で環境も重点4分野の一つに入れていただきました。引き続き地球環境問題は今後の社会を決する重要問題ですので、引き続き環境についてご配慮をお願いしたいと思います。

【野田議員】

他にございますか。

なければ、本案を決定することといたします。

(2) 独立行政法人日本学術振興会の中期目標・中期計画等の変更について

【野田議員】

続きまして、議題 2 に入ります。

次の議題 3 に関連しますが、最先端研究開発支援プログラムの執行に必要となります独立行政法人日本学術振興会の中期目標などについて、総合科学技術会議の意見を聴くこととなっております。文部科学大臣よりご説明をお願いします。

【塩谷議員】

最先端研究開発支援プログラムにかかわる研究助成業務については、我が省所管の日本学術振興会が担当することとされ、前回国会において日本学術振興会法の改正を行ったところがあります。今回、同法附則第 2 条 3 及び第 4 条 4 の規定に基づき、日本学術振興会が新たに実施することとなる先端研究助成基金の運用管理について、日本学術振興会に関わる省令業務方法書、中期目標、中期計画の変更について、総合科学技術会議のご意見をお伺いしたいと思います。

今回変更するポイントは、配付資料の 1 ページに記述させていただいているとおりでございます。よろしくお願い申し上げます。

【野田議員】

それでは、本案につきましてご意見ございますでしょうか。

(異義なしの声)

それでは、本案を了承することといたします。

(3) 最先端研究開発支援プログラムの中心研究者及び研究課題について

【野田議員】

続きまして、議題 3 に入ります。

本年 6 月の総合科学技術会議において創設が決定された最先端研究開発支援プログラムの支援の対象となる中心研究者及び研究課題につきまして、最先端研究開発支援会議及び最先端研究開発支援ワーキングチームにおいて検討が行われました。その結果につきまして、資料 3 に基づきご報告をさせていただきます。

最先端研究開発支援プログラムは、多大なる関心を集めて合計565件の提案が寄せられました。そして、最先端研究開発支援会議及び同ワーキングチームにおかれましては、夏休みを返上していただき、精力的な書類審査とヒアリングを実施していただきました。審査の過程では、公明正大に実施することが必須との考えのもと、利害関係者の排除、審査手続の公表等、公平性・透明性の確保に万全を期したところであります。

この結果、先ほどの最先端研究開発支援会議で同ワーキングチームが選定いたしました60課題の候補から30課題案を選定したところでございます。この30課題は、本制度のねらいである我が国を代表する今をときめく研究者のみならず、将来我が国を背負って立つことが期待される若手の研究者も厳選されています。

例えば世界の注目を浴びている鉄系超伝導素材の研究開発の第一人者である東京工業大学の細野教授、そしてiPS細胞の創出者で世界トップクラスの再生医療研究者である京都大学の山中教授、ダークマター・ダークエネルギーの正体を究明し、宇宙の起源と未来を解き明かすという夢のある提案を出されました東京大学の村山教授など世界をリードする研究者と研究課題が含まれております。

また、ノーベル賞受賞者やこのプログラムの実施のため海外から帰国する若手研究者も選ばれるなど、まさに我が国の英知を結集した顔ぶれとなっています。

共同提案者として女性研究者が含まれている研究課題が選ばれたことも今後の我が国の科学技術人材に厚みと多様性を持たせる契機として期待をしています。

今後は最先端研究開発支援会議及び同ワーキングチームにおきまして、研究開発費の調整や研究支援担当機関の選定等を進めていただくこととなります。本プログラムが我が国の中長期的な国際競争力の強化や底力の発揮に大きく貢献することを確信いたしております。

これより意見交換に入ります。順次ご発言をお願いします。

大変恐縮ではありますが、時間の都合上、一、二分程度の発言でお願い申し上げます。

まずは有識者議員、最初に相澤先生、お願いいたします。

【相澤議員】

支援会議の構成員と、それからワーキングチームの座長を務めさせていただきましたので、一言申し上げたいと思います。

先ほどの大臣のご説明にございました資料3の最後のページに参考としてあります図がワーキングチームがどんな形でこの選考を進めてきたかというプロセスを示しております。そこで

私が感じたことですが、既に世界のトップに立っている研究者あるいはこの数年間で世界トップになれると期待される研究者が我が国には大変多いという認識であります。ワーキングチームの構成員の方々のご自分の専門分野にかかわらず、この565件の応募のすべてについて評価にかかりました。特にヒアリングは、大変圧巻と申せるのではないかと思います。たとえノーベル賞受賞者であっても、これまでの実績というよりはこれからどんな革新的なことをやられますか、というような質問があるなど、いろいろな角度からの議論が、大変有益であったというふうに思います。

その結果として先ほど30件が選定されたわけですが、非常に多様な分野、それからいろいろな研究ステージの研究課題が入っております。いずれも世界をリードすることには確信を持てるような内容であろうと思います。しかも、国民に対しても明るい希望を指し示せるものではなかろうかというふうに考えます。

ただし、最終段階まで残らなかった応募案件に非常に数多くの宝がまだまだたくさんあるということをし添えておきます。基礎研究の中でも基礎フェーズから出口を見据えた応用・開発フェーズまで非常に幅広くいろいろあります。この選に漏れたからといって、それぞれの分野あるいは中心研究者が大切であるということは、我々選考に当たったものが等しく感じたところであります。むしろこうした力が発揮できるようにしていく新たな施策が必要ではないかということを感じたわけでございます。

以上でございます。

【野田議員】

ありがとうございます。ほかに。

では本席先生、お願いします。

【本席議員】

今回選ばれた30件いずれも素晴らしい方でありまして、ぜひ国としてサポートすべきと私も心から願っておりますが、やはり研究というのはお金が十分あることは必要ですが、あり過ぎるのも問題でありまして、やはり適正な規模、しばしばお金があり過ぎてスポイルされるということもありますので、やはり引き続きそのプロポーザルに対して適切であるのか。やはりこれは国民の血税でありますので、我々としては今後ともしっかり見ていく必要があると考えております。

以上でございます。

【野田議員】

では、白石議員、お願いします。

【白石議員】

今回私、実際にヒアリング対象者からのヒアリングを全部聞かせていただきまして、日本にはこんなにすばらしい人がいるのかと本当に元気になりました。実際に日本という国に対して、やっぱり誇りが持てるんです。ですから総理、お忙しいのはよくわかっておりますけれども、ぜひこの30人選ばれた方については単に会うだけじゃなくて、こういう人たちが実際に何をやっているのかが国民に少しでもわかるように、ちょっとそういうふうなことをこの30人の方に言っていただくということをぜひお願いいたします。これは本当にいいプログラムだったと思いますので、本当によろしくお願いします。

【野田議員】

では、榊原議員。

【榊原議員】

私もワーキングチームの構成員に加わりまして審査に参画したんですが、今、先生方おっしゃったとおり、本当に日本のトップレベルの研究者の方が非常にレベルの高い創造性のあるチャレンジングな、しかもトップ水準で、しかも将来の日本の成長あるいは基盤をつくる本当に夢のあるテーマをたくさん研究していらっしゃるというので、私も改めて意を強くした次第です。ぜひ総理自身がお会いいただきたいと思います。

このプログラムはもともと総理と関係閣僚の皆さん方の努力で発足したもので、私も改めて感謝申し上げるわけでございますけれども、ぜひこのプログラムを新政権になっても継続することはもちろんですが、ぜひこういった先進的なプログラムを恒久的な制度として定着させて、研究者を鼓舞するような形にしていきたいというふうに思っております。そのためにもこの30のテーマがきちっと成果を出すと。国民にしっかりと成果還元する、それから日本の成長に寄与するといったことができるように、我々総合科学技術会議としてもきちっとフォローするということが必要だということを改めて痛感しております。

【野田議員】

奥村議員、どうぞ。

【奥村議員】

こういう制度をつくっていただき、本当にありがとうございます。私もずっと選定の過程で参加させていただいて、大変素晴らしい方が多いなと実感しております。あと、30課題選ばれたので、これらをぜひ本当に国民にわかりやすい形で発信していただきたいし、これを見ますと、関係府省の所掌の範囲の関係のテーマもあると思いますので、各省庁におかれても関係するテーマを目立つところに置いて宣伝していただくとかの工夫もしていただき、ぜひ国民に広くわかっていただくような広報活動、これも大事じゃないかと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

【野田議員】

それでは、閣僚議員のほうからご発言があれば。文部科学大臣。

【塩谷議員】

ただいまいろいろご発言ございましたように、関係各位には献身的なご尽力により大変素晴らしい選定作業をやっていただいて、感謝を申し上げる次第でございます。このプログラムについては、複数年にわたって多額の国費を用いる事業であるということとして、国としてもしっかりと説明責任を果たしていく必要が重要でありまして、今お話が出たとおり、できるだけ国民の皆さん方にわかりやすく知らせていくことが大事だと思っております。

それから、選定過程あるいは適時適切に説明責任を果たしていくこと、そして、国費を無駄なく執行する観点から研究計画、支出内容をしっかりと精査することが重要だと考えておりまして、中心研究者が存分に実力を発揮するためには、また研究支援担当機関を選定するとともに、基金の運用にかかわる方針を適切に定めていくことが必要であると考えております。

日本学術振興会を所管する文部科学省としましては、最先端研究開発支援プログラムに対する社会、国民の期待に応えられるよう、本日は承を得た中期目標等に沿って、基金の運用管理に万全を期していくつもりでございます。この法改正を担当したわけでございますが、本事業は画期的な試みであり、関係者が一丸となってしっかり取り組んでいただくことを期待してお

ります。

以上です。

【野田議員】

では、経済産業大臣、お願いします。

【二階議員】

候補案件の選定に当たっては、総合科学技術会議の有識者議員をはじめ、多くの専門家の皆さんの大変長い時間を費やしてのご努力に心から感謝を申し上げたいと思います。「世界の最先端」と呼ぶにふさわしい案件を選定していただいたと高く評価をいたしております。

今回の候補案件を見ても、太陽光発電、人支援ロボット、がん対策等の分野で革新的な成果を実現し、地球温暖化や高齢化といった今日の社会の重要な課題に対して、喫緊にこの解決を目指すというものが多数含まれており、大変印象深いことであります。

また、大学や国の研究機関と企業が英知を結集して進めるような案件が多いと伺っておりますが、まさに未来の経済成長に向けた投資につながるものとなれば幸いだと考えております。

日本の代表的な学者等が選ばれておりますが、まさに世界に誇れる研究成果が示されることを大いに期待いたしております。

以上です。

【野田議員】

ありがとうございます。では、環境大臣、お願いします。

【斉藤議員】

16年前に科学技術基本法の立法に関与させていただきました。そういう意味では、その1つの大きな形がこういう形で出てきたのかなという非常に感慨深いものがございます。ただし、非常に基礎研究的なものも多いですが、我々もどんな成果が出るのかという観点からのみで見ると、ある意味で基本的なしっかりした学術的な基礎を築くという研究行為から少しずつ外れていくのも心配ですので、もちろん我々国民は成果を望んでおりますが、それと同時に学術的に立派な世界に通用する研究をしていただきたい、そういう思いも我々としては強く持っているということを研究者の方に伝えていただければと思います。

【野田議員】

時間になりましたので、意見交換はここまでとさせていただきます。

それでは、資料3につきまして、原案どおり決定したいと存じますけれども、よろしいでしょうか。

(異義なしの声)

それでは、原案どおり決定いたします。

なお、最先端研究開発支援プログラムに関しては、今後、研究支援担当機関の選定や、先ほど本席議員からご指摘がありました研究資金の額の妥当性などにつきまして、最先端研究開発支援会議及び最先端研究開発支援ワーキングチームにおいて検討を進めていただきたいと思います。

ここで、プレス入室いたします。

(報道関係者入室)

【野田議員】

それでは、最後に麻生総理からご発言をいただきたいと思います。

【麻生議長(内閣総理大臣)】

それでは、大変長い間皆さん方にご苦勞いただきましたけれども、本日、最先端研究開発支援プログラムの支援対象となります、いわゆる中心的な研究者及び研究課題を最終的に決定いただくことができました。今までのやり方にとられることなく選考ができたということは、これはものすごく画期的なことだと私自身はそう思っております。極めて透明かつフェアな手続きで選定をしていただいた。これはもう本当に皆さん方のご努力のおかげで、感謝を申し上げます。

プログラムに選ばれました中心研究者の方々は、これは今既に、もう日本を代表されるとか世界を代表されるような方々が多いんですが、研究課題というものが、これまでの研究課題でも立派な業績を上げられた方がさらにステップアップするというような我が国の明るい将来、未来というものを予感させるものがありまして、私ちょっと正直これはすごく感激をいたしたものの一つです。

いずれにしても、日本の優秀な研究者の持てる力というものを最大限に発揮できるようにするためにどうするかということで、長い間みんなで知恵を集めてここまで持ってきて、政治の世界とか行政の世界とかいろんな分野でいろんな弊害になっているところやら何やらを風通しを良くして、いろいろなことでご努力をいただいたんですが、いずれにしても、まことにフェアにここまで選んでいただきましたので、自信と気概というものを持って今後とも研究を進めていただきたい。これによって、日本の明るい未来というものを創造していただきたいものだと心から念願をいたしております。

本当に夏休み返上でお世話になりまして、本当にありがとうございました。おかげさまでございます。ありがとうございます。

(報道関係者退室)

【野田議員】

では、どうもありがとうございました。

なお、報告事項として資料を配付しておりますので、ご参照ください。

以上をもちまして、会議を終了いたします。

なお、前回の議事録と本日の資料は公表いたします。

ありがとうございました。